

# 脳と才能

連載第17回  
酒井 邦嘉  
東京大学教授・言語脳科学者



酒井邦嘉（さかいくによし）  
1992年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士。専門は言語脳科学で、人間に固有の脳機能を研究している。著者に『言語の脳科学』『科学者という仕事』『科学という考え方』（中公新書）、『脳の言語地図』（明治書院）、『脳を創る読書』（実業之日本社）、『芸術を創る脳』（東京大学出版会）、『チョムスキーと言語脳科学』（インターナショナル新書）、『脳とAI』（中公選書）、『勉強しないで身につく英語』（PHP研究所）。

## 「自分の考えを他人に通じさせるに必要な適切な言葉を知らない場合が多い」

『鈴木鎮一のことば集 一心を育てる』 p.54  
(公益社団法人才能教育研究会、2018年)より

鈴木鎮一先生のお言葉を紹介しながら、その奥義<sup>おうぎ</sup>を科学で考えるという連載です。才能教育研究会がめざす「才能」には、どのような意味が込められているのでしょうか。そしてその才能は、脳のどんな働きに支えられているのでしょうか。

連日のようにChatGPTについての報道がありますが、それを賛美<sup>さんび</sup>する人は「裸の王様」だと私は思います。目新しく最先端と思われる技術は注目を集めがちですが、その本当の姿を見極めるには冷静な判断が必要です。

ChatGPTとは「生成AI」の一種で、人工知能（AI）が人と会話するようにしたコンピュータ・システムです。機械は決して人の言葉を理解しているわけではないですし、そもそも言葉を「理解」させる設計ではありません。質問に対してインターネット上の関連情報を適当に取り出し、それらしく受け答えるだけです。

たとえば「太郎が花子に自分の写真を撮らせた」という文には、「太郎自身の写真を撮らせた」か「花子自身の写真を撮らせた」という二つの意味があります。ところが現状のChatGPTは前者しか認識できず、関係ない「文脈」を持ち出したり、「通常、人は自分自身の写真を撮るために他人に頼むことはありません」と決めつけたりします。

その一方で、「考えもしなかった新しい提案をしてくれる」とか、「創造性もあるのかもしれないと感じた」という意見がありますし、「試験やりポートにほとんど満点で答えられる」などと新聞に載ったくらいですから、教育への影響が心配です。



将棋やチェスの対局中継では、AIを使った指し手の予想や評価がリアルタイムで表示されます。数学の証明です

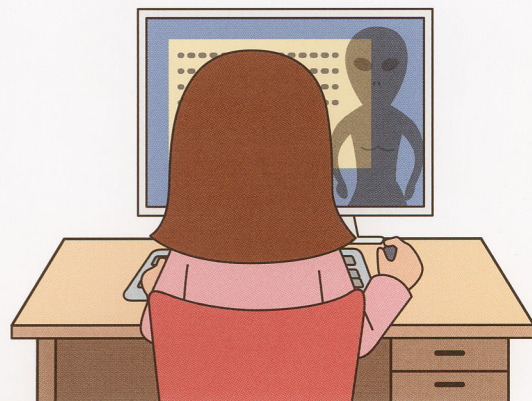
べての場合を尽くすために計算機を使ったりするように、将棋AIは膨大な指し手の可能性を絞り込むのにとっても役立ちます。研究用にAIを使うプロ棋士がいる一方で、決して使わないという人もいます。

しかし、実際の対戦でAIを使ったらカンニングと見なされます。雑誌・テレビなどの棋力判定や懸賞問題の応募にAIを使ったら、本当の実力が分からなくなるばかりか、そうした実力の「詐称<sup>さじょう</sup>」は出題者に対する裏切り行為でしょう。不正で得られた成果や称号は、その人の本当の姿ではないのですから。

ChatGPTを使うのは、それと同じことです。高価な生成AIに投資すれば、自分が背伸びした文章が書けるかもしれませんが。作文の宿題や文芸作品の応募でも、ChatGPTを使おうとする人がきつと出てくることでしょう。最初の下書きくらいならば使っても問題ないと考える人たちがいますから、使う人が周りにいるのに自分だけ使わないのは損だと思えるかもしれません。

音楽の機能を搭載した生成AIであれば、作曲もしてくれます。自分の頭脳を使わず、できるだけ楽をしてベストセラー小説やヒットソングを生もうとした結果、生成AIによる安易な「作品」が世にあふれる日も近いでしょう。

人々の価値観は常に変わっており、いかに時間を節約して効率よく仕事するかというタイムパフォーマンス（いわゆる「タイパ」）が今や大流行です。



生成AIは、いわば宇宙人（エイリアン）のようなものです

頭のよい人ほど、時間のかかりそうなことはできるだけ生成AIに任せようとするはずですが、そうすると、同じテーマについて10年以上も考え続けるような科学者や研究者など、もはや絶滅危惧種<sup>ぜつめつきぐんしゆ</sup>ですね。



人間どうしても、子どもが相手だったり、価値観が違ったりした場合は、なかなか話が通じないものです。冒頭の鈴木先生の言葉のように、「自分の考えを他人に通じさせる」のは本当に難しいことなのです。まして、心を持たない宇宙人のような機械を相手に「対話」するなど、無茶な話です。

作文や作曲は人間の創造的な営みですから、たとえ一部であっても機械に任せるとは残念なことです。学校の学習も楽器のレッスンも、教育には「創造的な頭脳を育てる」という大切な役割があることを忘れてはいけません。